

紹介

## 学生相談室の役割と今後の課題

山田 隆文

明倫短期大学 歯科衛生士学科

### The Roles and the Future Problems of Students Counselor's Office

Takafumi Yamada

*Department of Dental Hygiene and Welfare, Meirin College*

キーワード：学生相談員，カウンセリング，コーチング，メンタリング，アサーティブトレーニング

Keywords：Students Counselor, Counseling, Coating, Mentaling, Assertive Training

#### 1. はじめに

本学の学生相談室を引き継いで約1年が経過する。

そのなかで、いくつかの問題点が発生した。ひとつには、学生が学生相談室の扉を叩きやすい雰囲気を作り出すこと、そして、ふたつめには、学生が相談しやすい相談員の資質の向上と雰囲気をいかに作り出すか、という2点である。

学生相談は、相談室の門を叩くという決心をした学生が、一歩踏み出すことで、90%以上は解決をしている。しかし、問題を抱える多くの学生が、相談をする、悩みを打ち明けるといふことの決心ができない、その勇気がない、というところで悶々としているのである。実際には、内面的に問題を抱えている学生の多くは、前号で紹介した学生気質のように<sup>1)</sup>、内気で、イイコで、自己主張がしにくく、自分に自信を持たない層にある。

学生相談の立場は、相談員がcounselorやadvisorとして訳されているように、カウンセリングに近いもので、積極的な立場は取りにくい。従って、こういった学生を無理矢理、相談室に引き入れ、無理矢理、相談に導入することはできない。むしろ、逆の効果を及ぼすことになる。それは、学生指導になる

からである。学生相談の立場としては、学生が自分の心の扉を開いて悩みを話せるようになるまで、辛抱強く待つ必要があるのである。

また、学生相談には、非常に個人的でメンタルな内容も含まれることから、相談内容を家族や友人、他の教員にすら漏らしてはならないという個人情報保護、守秘義務も存在する。

さらに、近年、相談室の範疇を超える、精神的な問題も増えつつあるのが現状である。

#### 2. 学生相談と学生指導

ここで、学生相談室の立場を明確にしておく必要がある。学生相談と学生指導は、名称としては似ているが、まったく似て非なるものであることに、多くの教員は気が付かない。

##### 1) 指導 (Guidance)

指導は、交通指導・ブラッシング指導・進学ガイダンスなどと使われるように、すでに決まった決まり事、あるいは、クライアント（相談に訪れた学生）が知らない事柄を教えていくことである。この場合、クライアントは、自分自身に明確な問題があるという認識を持っていないことが、最大の特徴である。

例えば、「赤は止まれ」「ブラッシングが十分でないから、歯を磨きなさい」とか、「出席日数が足り

ずに、単位の取得が難しくなりそうだから、ちゃんと学校に出てきなさい」、「茶髪は禁止」などというのは指導である。

ここで問題となるのは、指導では、主体は学生の側にはなく、あくまでも教員や学校側の考え方を伝える方策として行われていくことである。なぜなら、指導には特別なトレーニングがほとんど必要ないからである。自分自身が、学生時代や新人の時に、教員や上司にされたやり方を、ただ何も考えずに踏襲すれば、それで自動的にシステムとして成り立っていく。ここには、パターンリズムに陥りやすいという危険性を秘めている。「しきる」という言葉をよく聞くが<sup>2)</sup>、教員や学校にとっては、あくまでも枠にはまったイコが扱いやすいからである。枠から弾き出されてしまった学生をどう扱うかということは、永遠の問題である。

## 2) 相談 (Consultation)

相談は、明確で具体的な問題を持っている。たとえば、「上顎臼歯部のブラッシングがうまくいかないんだが、どうしたらいいだろう?」とか、「ある学科がどうしても苦手なんだが、どう勉強したらいいだろう?」という具体的な質問がされる。相談員は、その問題に対しての具体的な答えを用意 (アドバイス) すればいいことになる。この場合の主体・主人公は学生側に移る。

ただし、相談員は、答えるのに必要な十分な知識や経験を身につけなければならない。知識がなければ、「なんだ、そんなことも知らないのか?」「自分で勉強をしてこい」という、アグレッシブな答えになり、これは、学生の自主性の芽をつぶしていくことになる。同時に、教員自体に知らないことを「知らない」と言える勇気も必要になる。知らなければ、「じゃあ、一緒に調べよう」というポジティブな関係が生まれてくる。

## 3) カウンセリング (Counseling)

一方、学生相談では、問題の取り扱いがカウンセリングに発展することがある。カウンセリングでは、クライアント自身は、何かがうまくいかないということは認識をしている。しかし、その具体的な問題点を特定できない。だから、悩んでいるのである。その問題点を、うまく自覚させて、解決に導いていくことが、カウンセラーの手腕である<sup>3)</sup>。

ただし、カウンセリングを行うには、専門家による十分なトレーニングと経験が必要である。また、

指導や相談と違って、すぐに問題がすっきりと解決することはないので、相談員には根気と忍耐力が必要になる。

以上のようなことから、担当教員の少ない施設では、どうしても学生相談と学生指導を兼ねることが多くなるが、教員の相当のトレーニングがなければ、両者は並立し得ないものである。

## 3. 学生相談を越える問題

学生指導・学生相談・カウンセリングには、一つだけ条件がある。

統合失調症・双極性感情障害 (躁鬱病)・鬱病などの精神病領域の問題、神経症・パーソナリティ障害、ストレスなどに伴う適応障害<sup>4)</sup>など、器質的な精神疾患を伴う場合は扱うことができないという原則である。また、正常な人であっても、ストレス・コントロールがうまくできない場合は、神経をすり減らし、身体的な神経性胃炎や過敏性腸症候群などを引き起こすこともあるし、心理的には、心身症や、いわゆる鬱状態に移行することもある<sup>5)</sup>。

睡眠薬・抗不安薬などの服用が必要なケース、服薬中のケースに関しては、ちょっとした言動でも、非常に繊細な対応が必要となってくることを肝に銘じてもらいたい。

## 4. 相談員に必要なその他のスキル

### 1) インテーカー

カウンセリングで、最初の面接をインテーク面接 (初回面接) ということから由来するもので、来訪した相談者にいちばん最初に会う担当の役割である。その際、相談にきた目的や問題点を理解し、必要な場合は、適切な担当者を紹介・アポイントを取る。

ただし、非常に重要な役割であり、この初回面談の対応の仕方そのものが、相談者がこれから相談を続けるか諦めるかなどの重要な判断基準となる。従って、カウンセリングの基本的なテクニックの知識が必要である。施設によっては、ケースワーカーなどが代行することもある。

### 2) メンタリング

学生の良き指導者、良き理解者、良き支援者としての役割を果たす人物を意味する。

メンターの語源は、ホメロスの叙述詩、トロイア戦争の『オデュッセイア』の登場人物の「メンートル」である。オデュッセウス王のかつての僚友で、

王の息子テレマコスの教育を託されたことに由来する。

e-ラーニングでは、講座の進捗状況をアドバイスを行い、企業などにおいては、先輩が新人教育をする係などとして配置されている<sup>6)</sup>。

### 3) コーチング

カウンセリングでは、過去を探ることで問題点の原因を探り出すことにある。コーチングは、スポーツのコーチから企業などの研修の世界に広まったもので、では、次にその問題が発生しないようにはどうしたらいいのか、という未来を対象としていく。

### 4) アサーティブ・トレーニング

指導ではパターンナリズム的になり、「◎×しなさい」「△□してはいけない」というアグレッシブな言動が多くなる。これは、学生や部下を萎縮させ、本来の力を引き出す効果はない。アサーティブは、直訳すると「自己主張」ということになり誤解を生みやすいが、その意味は、「自分の言いたいことを、相手の気持ちを考えながら、きちんと伝える」ということである<sup>7, 8)</sup>。

## 5. 今後の課題

### 1) 相談員のトレーニング

相談員のカウンセリング等への講習会派遣などの機会を設ける。

### 2) 相談室の整備

学生が来訪しやすい相談室の整備が必要である。その際、学生の相談内容の守秘が守れるような環境であることが望ましい。

### 3) 心理的な問題への対応

相談員で対応できないような深いメンタルの問題は、学業などと直接関係のない外部のカウンセラーを依頼する。

### 4) 器質的な精神疾患への対応

専門的な対応が必要な場合には、心療内科や精神科に紹介し、リエゾン療法などを行う。

### 5) 学生への講習会等の開催

ストレスマネジメント・カウンセリングなどの基礎について、学生への講習会なども開催する。

今後、学生の問題を整理し、教職員がこれに対応しやすい環境整備（図1）を進めていきたいと考える。

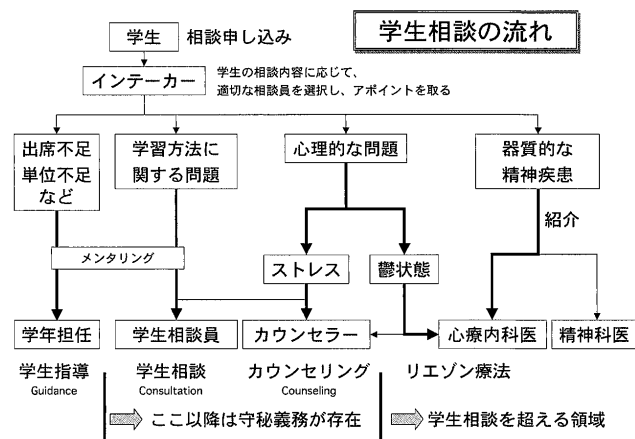


図1 学生相談の流れ

以上のようなことを通して、学生・教職員を含めたよりよい環境作りに、学生相談室が寄与できれば幸いである。

## 文 献

- 1) 山田隆文：歯科衛生士学科の学生気質と教育課題. 明倫歯誌, 9: 87-89, 2006
- 2) 柏木博：「しきり」の文化論. 講談社, 東京, 2004
- 3) 佐治守夫, 飯長喜一郎編：ロジャーズ クライエント中心療法. 有斐閣新書, 東京, 2001
- 4) 小此木啓吾, 深津千賀子, 大野裕編：精神医学ハンドブック. 創元社, 大阪, 1998
- 5) 金吉晴編集：心的トラウマと理解とケア, じほう, 東京, 2002
- 6) 渡辺三枝子, 平田史昭：メンタリング入門. 日経文庫, 東京, 2006
- 7) アン・ディクソン, アサーティブジャパン監訳・監修：アサーティブネスに学ぶ対等なコミュニケーション それでも話し始めよう. クレイン, 東京, 2006
- 8) メロディ・シェネバート, 藤田敬一郎, 杉野元子訳：ナースのためのアサーティブ・トレーニング さわやかに自分を主張する方法. 医学書院, 東京, 2003